

## 留学状況報告

11月3日

岩手大学教育学部4年

和野彩月

留学先：オーストラリア

### ○インクルーシブ教育に関して

実践校に行き始め、2週間が経ちました。実践をお話するために、まずはオーストラリアの学校の仕組みからお話します。

オーストラリアの学校は、各州によっても仕組みが異なりますので、私がいるクイーンズランド州についての説明になります。学校としては小学校に充たる Primary School と中高等学校に充たる High School があります。小学校には Prep という小学校準備段階の学年から6年生までの7学年あります。高校は7年生から12年生まであります。10年生までが義務教育で、12年生まで勉強をするか、仕事をするかを選ぶそうです。大抵の生徒は12年生まで在籍をします。

私のお世話になっている学校は Prep から12年生まであります。もう少し正確に言うと4、5歳児の幼稚園から12年生までが併設されています。私は高校の日本語の授業、英語の授業を中心として活動しています。支援の対象は主に7年生と8年生です。英語のクラスでは私の英語がまだまだ頼りなく、支援になり切っていませんが、日本語の授業でも生徒と関われることで、頼もしい面を見せることができ、信頼関係の構築に役立っています。

「共に学ぶ」ということを可能にしている側面として、ICT教材の存在が大きく見えます。高校では一人1台パソコンを所有しています。授業中に頻繁に使用しています。細かくタスクを課し、フィードバックをするというやり方で、生徒の学習における達成を保障しようとしています。課題の取り組み状況を教師が把握でき、必要な補助ができる、ということもパソコンを利用した指導の優れている点のように思います。

高校では7年生から12年生までが縦割りでハウスに所属します。ハウスは4つあり、生徒はそこで家族のような所属感を抱くのだと言います。毎週ハウスごとの集会があり、親睦を深めます。1週目の水曜日には合唱コンクールのようなものがあり、ハウスごとに競いました。エンターテインメント性が強く、衣装や動きにも工夫が見られ、見ていて楽しいものでした。このようなハウスというシステムが、一つ、生徒同士の関係を円滑にしているもののように見えました。



写真：singing competition の様子

#### ○言語的マイノリティ

今私が強く感じているのは、言語的マイノリティとして学校に入りこむしんどさです。生活をする分にはそこまで感じませんが、学校内では強く感じます。この学校では、英語を母語としない児童生徒に対する補助部門があります。日本の学校での日本語指導の実際がどうなっているのか私はよく分かりません。岩手県では一つの中学校に日本語指導教室ができたのは聞いています。

教職に関する講義で、「日常会話レベルの日本語ができていても、学問レベルの日本語を理解しているわけではないから注意しないとイケない」ということを言われました。体感してやっと意味が分かりました。日本語の講義では「中学校の時に日本に来た子で、きちんとした日本語の指導がされず放置されたため、どの言語も母語レベルまで育たなかった子がいる」という話も聞きました。

こちらの学校では「言葉さえ分かればもっとできるのに」という思いを沢山味わっています。学校で使用される学問的言語、母語話者同士のスピードで交わされる会話がこんなに難しいとは思っていませんでした。英語の授業では詩をやっており、専門用語として頭韻、隠喩、直喩、擬音語、擬人化などが出てきます。幸いなことに私は日本語での単語が分かればその内容が理解できます。それでも英語のレベルが授業を理解するのに不十分で、第一言語でも概念を持っていないとしたら悲惨だと感じました。海外にルーツのある子どもは増えています。学校でその子達に学習内容にアクセスできるような保障をしたいと強く思います。残念ながら学校の教員のなかで日本語教育を学んでいる人は、ごく少数でしょう。学習指導要領に配慮事項は載っていますが、配慮に留まり、指導についてはまだ約束できるレベルではないと思います。地域にボランティアの日本語教室も複数ありますが、あくまでボランティア。その人によって何を教えたいのかは変わってきてしまう。そして必ずしも学習者のニーズに沿わないことがある。

「日本語指導を学校内で行う」と、約束できるようになればいいなと思います。  
日本の学校における日本語教育についても考える機会となりました。

#### ○生活のこと

語学学校の終了と共にホームステイも終了し、シェアハウスに住み始めました。自炊をしなければならないので、週末に1週間分の買い物をします。ホストマザーにラスティマーケットというものの存在を教えてもらいました。毎週金曜日から日曜日に開かれる産直のような場所です。ものによりますが、野菜や果物がスーパーよりも安く買えるので毎週立ち寄っています。



写真：ラスティマーケットの様子

先日こちらに来て初めてえのきを購入しました。日本では100円以下で買うことのできるえのきがこちらでは500円近くもかかりました。オーストラリア産のもので、輸入をしたわけでもないのにその値段ということは、恐らく、気候に適さず手間と費用がかかるのだらうと思います。気候の違いによる作物の値段への影響を感じます。